

伝統家具の試作研究

— シェーカー家具(Ⅳ) —

上原守峰

58・59・60・61年に復元したシェーカー家具14種28点を、研究成果発表会での展示が主であるが、TV出演、雑誌への投稿などを行ない一般市民、マスコミ、木工業界への啓蒙を図った。本年度は、2業者へシェーカー家具製造技術を移転した結果、それぞれに工夫をこらして14種28点ずつの製品が完成した。なお、1業者は中小企業振興公社の補助金を利用して家具づくりに必要である木工用倣い旋盤を設置した。又、シェーカーの家具製造技術と思想を基に、1業者へパインファニチャー製造に関しての技術移転を行った。

1. はじめに

56年7月から約1年間、イギリスのロンドン・カレッジ・オブ・ファニチャーのデプロマコースに留学する機会を得た。そこでは、家具製造教育機関と骨董家具市場の発達に伴った家具修理技術の充実など、家具のおかれている環境が整っていた。

古い建築物には、古い家具が似合いやすいという特殊な環境をもつが、生産性よりむしろ人間性の方が重要視されて新しいものより古いものに接する機会が多く与えられていた。人間生活と家具とのかかわりは、基本的にはそう変化するものではない。目新しさだけを追っていくより、時間はかかるが伝統の習作を通して基盤をつくり、その中から新しいものを生み出していくことの方が自然なのではないかと考える。

確固たる家具の伝統技術を有しない本県にとっては、洋家具の基本を見直すことが肝要であろうと考え、伝統家具の復元研究を始めたわけである。

2. 概要

2-1 目的

- ① 伝統家具の復元による木工芸技術の基盤づくり
 - ・伝統家具製造技法の取得(デザイン・機能・素材の使い方、寸法、加工技術、塗装)
 - ・復元プロセスの確立(家具の選定→寸法調整→原寸図作成→治具の製作→ロット生産による試作→業界への技術移転→商品化)
- ② 伝統家具製造技術を基盤にした現代工芸品への応用
 - ・①を踏まえ、創作木工芸業者の育成を図る。

2-2 シェーカー家具の復元について

和家具や漆製品における製造技術や使い方は、長年もの和風生活の中で育ててきたものでありその心随は奥深く、外国人が真似たとしても表面だけのものになり、日本という風土の中でしか理解しがたいものがある。

それと同様に伝統の浅い椅子を中心にした洋家具を少しでも理解しようとするなら、その文化に触れ、長年その地で使われてきたものから学び取っていかざるを得ないであろう。

家具の発展史上で正確な図面による複製の研究というのは、実に重要な位置づけにあり特に洋家具の基礎研究はこれなしには不可能である。絵や写真からではなく正確につくられた復元家具や当地の現物家具そのものから直接に触れて学ぶ以外にないのではなからうか。長い伝統の中で取捨選択された経験が作り出したものは数多く、今でもリ・プロダクションされている家具が欧米にはある。ここには、理屈では到底達し得ない何ものかが隠されていると思うし、復元試作してみる必要性を感じる。

そこで、アメリカの伝統家具として必ず登場してくるシェーカー家具を複製研究することになったわけだが、シェーカーを対象にしたのには理由がある。第一に、日本人のテストに合致していてシンプルでモダンなこと、第二に、この家具は学問の対象にもなっており書籍も数多く正確な図面が入取できること、第三に、アメリカで現在も企業が製造販売しており現物をキット販売等を利用して輸入できること、第四に、シェーカー家具についての有識者が情報提供してもらうのに便利な距離に存在したという点である。

これらの中で、第四の理由がシェーカー家具復元研究の継続に最も大切な事項であった。ラ・サール学園修道士、藤上知弘氏であるが、氏はアメリカに6年間滞在中シェーカー家具について研究を始め、前シェーカー博物館長とも面識があり、シェーカーに関する新刊書はすべてアメリカより送付してもらっている。シェーカー家具についてのアメリカの実情(現物に対する観察、骨董市場、有識者、専門書)にととても詳しく、又新刊書を通じて幅広い知識を有しておられる。西洋民芸家具の生みの親である松本市の池田三四郎氏によると、藤上式ビュー

ローと称して氏のデザインしたものは松本民芸家具の中でも一番高価なものとして製作されているとのことである。

2-3 技術移転

① D 社

公共用造家具メーカーで、注文生産は県外に及び箱物に関しては技術力がある。暇な時期には、学童用の椅子を製造してきたが、高技術をこれらに向けるのは惜しいということと自社有店舗に仕入商品を展示せずにオリジナルを開発していきたいとのことで、シェーカー家具を技術移転した。

この企業の場合には、市場動向を把握した段階で設備導入を計画していたので、挽物はすべて外注した。

- ・試作品 ハイバックチェア 5種10点
 - ダイニングテーブル(角) 1種1点
 - ダイニングテーブル(丸) 1種2点
 - ベンチ 1種2点
 - コーヒーテーブル 2種4点
 - ダイニングチェア 1種2点
- (合計 11種21点)

・移転した技術

長尺物の丸棒加工と手バイトによるフィニアルの加工、曲げと曲げ治具の製造方法、座張りの方法、塗装技術、図面の提供

② H 社

屋久杉象嵌茶托をメインにしミシン鋸での象嵌技術や彫刻を施すことでクラフト味のある製品づくりをしている二人だけの零細企業である。小物分野を得意とするが磨きのていねいさと治具づくりの完成度など、他の業者の追従を許さない仕事ぶりである。この業者には、中小企業振興公社の新品企業化促進事業の補助を受けさせ、木工用倣い旋盤・帯鋸の設備を導入させた。

- ・試作品 ツール 5種8点
 - ダイニングチェア 3種6点
 - ソートテーブル 2種4点
 - キャンドルスタンド 1種1点
 - サイドテーブル 1種2点
- (合計 12種21点)

・移転技術

倣い旋盤加工技術(倣い型治具製法、刃物研磨技術、プレ止めのセッティング、長さ寸法決め治具、頭部分の丸め方と寸法決め技術)煮沸法による曲げ木加工技術(曲げ治具、水分除去治具、木取り)椅子の組立技術(組立順序、非直角の搾穴治具)座張り技術(アクリルテープの配色法、アクリルテープの編み方と張り具合)

③ S 社

精神薄弱者の更生施設といえば、企業の下請けで追われているのが実情であるが、この施設は工房名をつけ素朴で心暖まるような製品づくりを理想としている。作業種目は、木工、竹工、陶芸、織物、洋裁、園芸、セメント、紙工など多岐である。手間のかかる編組や工程や部材の多い木工製品は、これらの施設には都合がよい。米マツを使用したシンプルな家具や、シェーカーの座張りを応用した小椅子など、シェーカーの思想と技術を基盤にして指導した。合わせて、黎明館での展示と東京渋谷での展示即売会などに対してのアドバイスを実施した。

- ・試作品 ライティングビューロー 1種1点
 - バタフライテーブル 1種1点
 - チェスト 1種1点
 - 椅子 3種3点
 - 子供用椅子 3種3点

・移転技術

椅子の座張り(アクリルテープとペーパーコードによる編み方と張り具合、アクリルテープの配色法)シェーカーのスタイルと構造の生かし方、シェーカーのモノづくりに対する思想

2-4 61年度の試作品

本年度は、昨年に引継ぎハイバックチェアを4点試作したが、治具をつくり直したり、加工法を変えたりしてより加工がしやすい体制にした。又、座張りには荷造り用紙ロップメーカーに、アメリカのクラフトペーパーを参考にしてペーパーコードを試作してもらった。紙質がもう1歩であったが、実用に支障なく使うためには試用してみる必要がある。

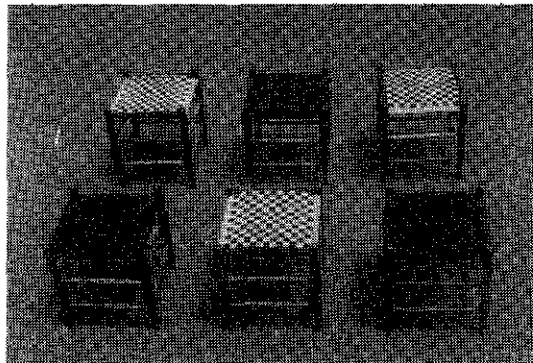
3. まとめ

脚物の加工技術、椅子の座張り、曲木技術、各種治具の製作など、基本技術の移転を終えたが製品から商品にしていくには価格・流通・プレゼンテーションの諸問題が残される。D社は旋盤を所有していないので得意とする箱物分野の確立へ向けての復元品の選定・図面指導に、H社へは脚物を主体にしたハイバックチェアの技術指導が継続業務として残されている。

4年目で一応、シェーカー家具製造技術を二業者に、応用技術を一業者に移転したが、本年度試作するロッキングチェアを最後に、ロット生産をやめ、1品ずつを試作していく予定にしている。

又、ロッキングチェアについてはアメリカからキットを輸入し、伝統家具と市販されているものとの比較研究するため鹿児島大学教育学部との筋電図の測定をするな

ど共同研究を考慮中である。



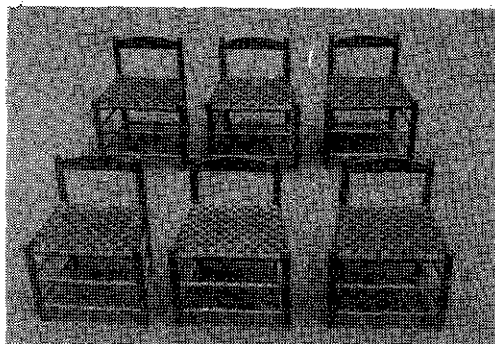
58年度試作品

スツール：2種6点

座の色：ブラックとレッド
ベージュとブルー

材 料：タブ、ナラ、ウレタン、
アクリルテープ

塗 装：オイルフィニッシュ

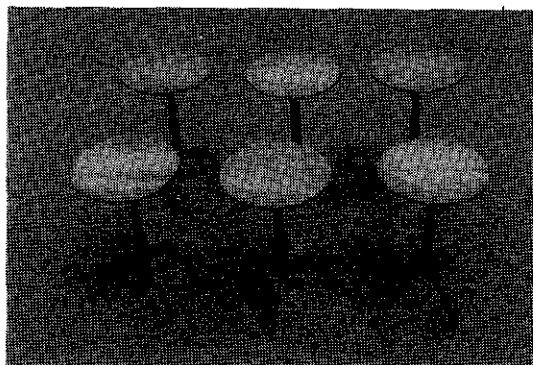


59年度試作品

ダイニングチェア（1種6点）

材 料：タブ、アクリルテープ、ナラ、
ウレタンフォーム

座の色：レッドとグリーン

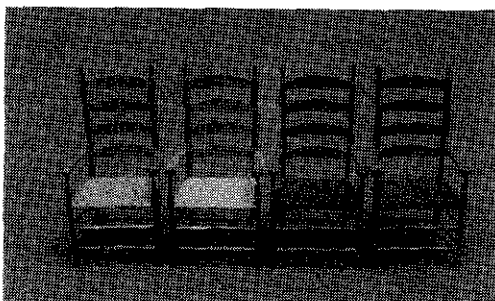


58年度試作品

サイドテーブル：1種6点

材 料：タブ、銅板、木ネジ

塗 装：オイルフィニッシュ



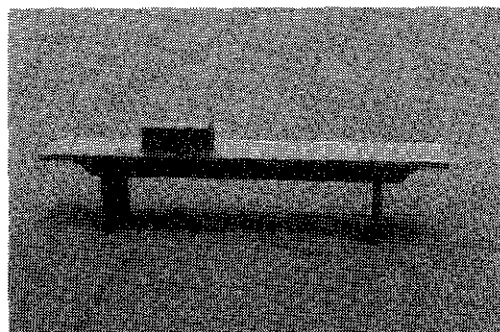
60年度試作品

ハイバックチェア（4種4点）

座の色：レッドとグリーン、ブラックとグリー
ン、モスグリーン、ベージュ

材 料：ケヤキ、ミズメザクラ、ナラ、ウレタ
ンフォーム、アクリルテープ

塗 装：オイルフィニッシュ

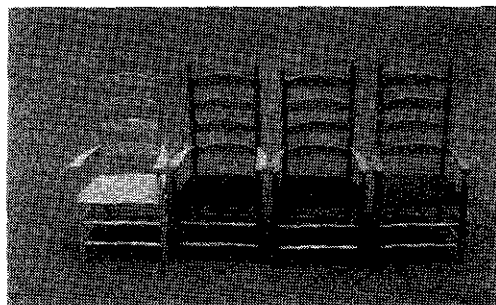


59年度試作品

ベンチとキャンドルギックス（2種2点）

材 料：タブ、木ネジ、蝶番

塗 装：オイルフィニッシュ



61年度試作品

ハイバックチェア（4種4点）

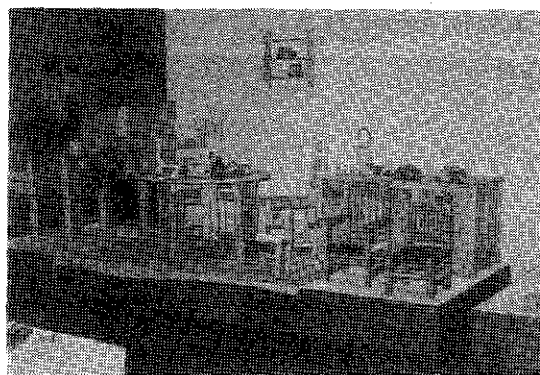
座の色：レッドとグリーン、ブラックとレッド
レッド

材 料：ミズメザクラ、ナラ、ウレタンフォー
ム、アクリルテープ、ペーパーコード

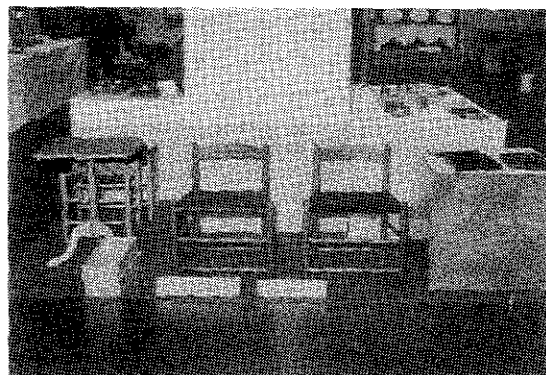
塗 装：オイルフィニッシュ



D社の試作品



S社の試作品



H社の試作品（一部）